



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）



2023年11月9日

上場会社名 ぴあ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4337 URL <https://corporate.pia.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 矢内 廣
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役コーポレート担当 (氏名) 吉澤 保幸 TEL 03-5774-5278
 四半期報告書提出予定日 2023年11月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	19,665	26.1	980	122.8	948	143.0	896	△12.9
2023年3月期第2四半期	15,600	59.7	440	—	390	—	1,029	—

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 898百万円 (△13.2%) 2023年3月期第2四半期 1,035百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	58.71	—
2023年3月期第2四半期	67.47	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	93,973	5,252	5.6
2023年3月期	74,798	4,354	5.8

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 5,261百万円 2023年3月期 4,351百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2024年3月期の配当予想につきましては、現時点で未定としています。

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,000	0.7	1,200	46.3	1,000	66.5	900	△36.4	58.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 - 社（社名）、除外 - 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、決算短信（添付資料）9 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	15,621,313株	2023年3月期	15,358,813株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	354,822株	2023年3月期	90,969株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	15,266,756株	2023年3月期2Q	15,255,283株

（注）株主資本において自己株式として計上されている役員株式給付信託（BBT）が保有する当社株式は、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、決算短信（添付資料）3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、5月に新型コロナウイルス感染症が、季節性インフルエンザと同等の分類に引き下げられて以降、国内経済活動の正常化とインバウンド需要の回復が進んでいます。一方で、各種物価の高騰継続、円安進行、海外景気の下振れによる影響などは注視すべきものの、全般的には、景気には持ち直し傾向が見られています。特に当社が事業基盤とする国内レジャー・集客エンタテインメント市場においては、集客制限の撤廃に伴い、ライブ・イベント開催の動きが活発化しており、明確に復調に転じ、また、これまで抑制されてきたエンタメ活動への反動消費もあり、興行規模の拡大、チケット単価の上昇等により、市場全体が堅調な推移を辿って参りました。

こうした経営環境下、新たな中期経営計画(2023~2025年度)の初年度となる当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、第1四半期に続き、人気アーティストの全国ツアーやドーム規模の来日公演、大規模フェス、プロスポーツの国際大会等の大型案件の発売が集中し、特にインターネット経由でのチケット販売が好調に推移した結果、取扱高ベースでの売上は1,300億円規模となり、当第2四半期連結累計期間では過去最高の水準となりました。主催事業や出版商品、ぴあアリーナMMの稼働率等が堅調だったことも併い、営業利益、経常利益においても、期初想定を上回る形で推移しております。

以上の結果、当社グループの第2四半期の連結業績は、売上高196億65百万円(前年同四半期は売上高156億円)、営業利益9億80百万円(前年同四半期は営業利益4億40百万円)、経常利益9億48百万円(前年同四半期は経常利益3億90百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益8億96百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益10億29百万円)となりました。

売上に貢献した主なイベントや商品は次のとおりであります。

<イベント>

- ・「プロ野球公式戦」「サッカーJリーグ」
- ・「リポビタンDチャレンジカップ」「大相撲」
- ・「FCバイエルン・ミュンヘン対マンチェスター・シティFC Audi Football Summit」
- ・「横浜F・マリノス対マンチェスター・シティFC 明治安田Jリーグワールドチャレンジ2023」
- ・「ROCK IN JAPAN FESTIVAL」「ap bank fes」
- ・「COLDPLAY」
- ・「JO1」「KCON JAPAN 2023」
- ・「B'z」「松任谷由実」
- ・「Mrs. GREEN APPLE」
- ・「ブルーノ・マーズ」
- ・「Stray Kids」「INI」
- ・「Mr.Children」「福山雅治」
- ・「UVERworld」「Billy Joel」
- ・「シルク・ドゥ・ソレイユ/アレグリア」「ディズニー・オン・アイス」

<商品>

- ・「大谷翔平語録」
- ・「森のカフェと緑のレストラン」

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、939億73百万円となり、前連結会計年度末と比較して191億75百万円増加いたしました。流動資産は707億40百万円(前連結会計年度末比193億80百万円増)となりました。変動の主なものは、現金及び預金の増加(同167億35百万円)であります。固定資産は232億32百万円(前連結会計年度末比2億5百万円減)となりました。変動の主なものは、無形固定資産の減少(同2億31百万円減)によるものであります。

負債は、887億21百万円となり、前連結会計年度末と比較して182億77百万円増加いたしました。流動負債は687億17百万円(前連結会計年度末比122億83百万円増)となりました。変動の主なものは、買掛金の増加(同159億7百万円)と1年内返済予定の長期借入金の増加(同80億50百万円)であります。固定負債は200億3百万円(前連結会計年度末比59億93百万円増)となりました。変動の主なものは、長期借入金の減少(同59億67百万円)であります。

純資産は、52億52百万円となり、前連結会計年度末と比較して8億98百万円増加いたしました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が8億96百万円増加したこと等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して167億35百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末は430億91百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは196億29百万円の収入（前年同四半期は57億55百万円の収入）となりました。この主要因は、売上の漸次増による仕入債務の増加が159億78百万円であったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは8億8百万円の支出（前年同四半期は23億19百万円の支出）となりました。この主要因は、有形固定資産の取得による支出が1億66百万円、無形固定資産の取得による支出が4億74百万円であったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは20億85百万円の支出（前年同四半期は31億40百万円の支出）となりました。この主要因は、長期借入れによる収入が70億円、長期借入金の返済による支出が90億82百万円であったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期までの業績は、新型コロナウイルス感染症の5類移行後の市場回復と、反動消費の追い風を受け、基幹事業群（チケット流通を中核としたバリューチェーン事業）の実績はコロナ禍前を上回る形で好調に推移し、こうした基幹事業群の力強い回復によって中期経営計画初年度としての通期目標の達成も十分に見通せる状況にきております。一方、第3四半期以降の基幹事業群の好況の継続には、諸物価の上昇や社会・業界全般的な人手不足等の問題の顕在化により、一定の減速リスクがあるものと想定しております。

加えて、中期経営計画の達成に向け、鋭意準備を進めてきた「グローバル・イベント(万博等の国際イベントのチケットング業務)」、「DMS(デジタルメディアサービス事業)」、「ホスピタリティ事業(VIP向け高付加価値体験パッケージの販売)」等の新規事業群においては、第3四半期にかけて順次本格的な事業化を迎える想定ですが、基幹事業群の好調を背景に、こうした事業群への戦略的投資を積極化してまいります。その持続的な成長を確保するとともに、この間の社会情勢を踏まえ、人的資本の確保・拡充を当社経営の中核に据えた人的資本経営にも注力し、従業員の採用や待遇改善を進めてまいります。

以上の通り、第3四半期以降の集客エンタメ市場の減速リスク、新規事業群の戦略的投資活動の強化、経営全般に及ぶ人的資本の確保・拡充の遂行、加えて関西万博等の大規模受託事業の帰趨が不透明なこと等も勘案し、通期連結業績予想につきましては、期初(5月)公表の予想数値に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,356	43,091
売掛金	21,612	22,797
棚卸資産	77	72
その他	3,328	4,797
貸倒引当金	△14	△16
流動資産合計	51,360	70,740
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,558	11,230
工具、器具及び備品（純額）	365	561
土地	724	724
その他（純額）	11	23
有形固定資産合計	12,660	12,540
無形固定資産		
ソフトウェア	4,370	3,904
ソフトウェア仮勘定	1,695	1,930
その他	77	76
無形固定資産合計	6,143	5,911
投資その他の資産		
投資有価証券	1,587	1,684
その他	3,406	3,519
貸倒引当金	△359	△423
投資その他の資産合計	4,634	4,780
固定資産合計	23,438	23,232
資産合計	74,798	93,973

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	40,369	56,347
1年内返済予定の長期借入金	9,065	1,015
未払金	2,375	2,952
未払法人税等	99	129
賞与引当金	212	157
その他	4,311	8,114
流動負債合計	56,434	68,717
固定負債		
長期借入金	12,159	18,127
株式給付引当金	213	216
退職給付に係る負債	59	65
資産除去債務	1,281	1,298
その他	294	294
固定負債合計	14,009	20,003
負債合計	70,443	88,721
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,962	6,410
資本剰余金	2,128	2,577
利益剰余金	△3,583	△2,687
自己株式	△166	△1,063
株主資本合計	4,340	5,236
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12	25
為替換算調整勘定	△36	△32
退職給付に係る調整累計額	33	31
その他の包括利益累計額合計	10	24
非支配株主持分	3	△8
純資産合計	4,354	5,252
負債純資産合計	74,798	93,973

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	15,600	19,665
売上原価	9,883	12,536
売上総利益	5,717	7,128
販売費及び一般管理費	5,277	6,148
営業利益	440	980
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	8	10
持分法による投資利益	2	19
諸債務整理益	22	8
助成金収入	60	58
その他	2	2
営業外収益合計	96	99
営業外費用		
支払利息	129	87
その他	17	44
営業外費用合計	146	131
経常利益	390	948
特別利益		
関係会社株式売却益	678	—
特別利益合計	678	—
税金等調整前四半期純利益	1,069	948
法人税等	39	64
四半期純利益	1,029	884
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△12
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,029	896

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	1,029	884
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	12
退職給付に係る調整額	△0	△2
持分法適用会社に対する持分相当額	8	3
その他の包括利益合計	5	14
四半期包括利益	1,035	898
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,035	910
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△12

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,069	948
減価償却費	1,125	1,140
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△57	△55
新型コロナウイルス関連損失引当金の増減額 (△は減少)	△13	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	7	66
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1	5
株式給付引当金の増減額 (△は減少)	△52	3
受取利息及び受取配当金	△9	△11
支払利息	129	87
助成金収入	△60	△58
持分法による投資損益 (△は益)	△2	△19
関係会社株式売却損益 (△は益)	△678	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,777	△1,184
棚卸資産の増減額 (△は増加)	20	5
仕入債務の増減額 (△は減少)	6,683	15,978
未払金の増減額 (△は減少)	859	428
前受金の増減額 (△は減少)	1,435	3,246
前渡金の増減額 (△は増加)	△144	△24
立替金の増減額 (△は増加)	△417	△538
その他	△1,129	△313
小計	5,990	19,705
利息及び配当金の受取額	9	11
利息の支払額	△122	△94
助成金の受取額	27	0
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△149	6
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,755	19,629
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,268	△166
無形固定資産の取得による支出	△1,403	△474
投資有価証券の取得による支出	—	△60
関係会社株式の取得による支出	△224	—
長期前払費用の取得による支出	△12	△39
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	585	—
その他	5	△68
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,319	△808
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△2,500	—
株式の発行による収入	—	896
長期借入れによる収入	—	7,000
長期借入金の返済による支出	△657	△9,082
自己株式の取得による支出	△0	△896
自己株式の処分による収入	20	—
配当金の支払額	△0	—
その他	△2	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,140	△2,085
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	295	16,735
現金及び現金同等物の期首残高	24,361	26,356
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,657	43,091

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年8月10日開催の取締役会決議に基づき、2023年8月31日付で株式給付信託への追加拠出に伴う新株発行を実施し、この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ448百万円、自己株式が896百万円増加しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、一部の連結子会社を除き、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

当社グループは単一の報告セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

当社グループは単一の報告セグメントであるため、記載を省略しております。